

社会政策学会 Newsletter

◇ 学会本部 京都大学大学院経済学研究科 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/>

Tel: 075-753-3461 E-mail: hisamoto@econ.kyoto-u.ac.jp

◇ 編集・発行 久本憲夫(代表幹事) 猪飼周平(広報委員長) 林 祐司(事務局長)

◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング

Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757 E-mail: world@med.email.ne.jp

《目次》

1. 会員総会のお知らせ
2. 第122回(2011 春期)大会実行委員会より
3. 第122回(2011 春期)大会プログラム
4. 第123回(2011 秋期)大会のお知らせ
5. 2010年度秋季(第121回)(愛媛大学)大会に関して
6. 第121回(2010 秋期)大会会計報告
7. 社会政策関連学会協議会活動報告
8. 社会政策関連学会協議会メールニュース No.3
9. 2010年度専門部会・地方部会活動報告
10. 西村豁通名誉会員のご逝去について
11. 2008-2010 年幹事会議事録
12. 2010-2012 年幹事会議事録
13. 承認された新入会員

1. 会員総会のお知らせ

2011 年度総会を次のとおり開催いたします。会員の方はご出席ください。

代表幹事 久本憲夫

日時：2011 年 5 月 21 日(土) 17 時 15 分より

場所：明治学院大学 3 号館 3201 教室

議題(予定)：

- (1) 2010 年度活動報告
- (2) 2010 年度決算報告
- (3) 2011 年度活動方針
- (4) 2011 年度予算
- (5) 学会誌掲載論文のインターネット検索およびダウンロードについて
- (6) 社会政策学会賞選考委員会報告
- (7) 名誉会員の推挙
- (8) 各種委員会報告
- (9) その他

2. 第122回(2011 春期)大会実行委員会より

社会政策学会第122回大会は、5月21日(土)及び22日(日)に明治学院大学白金キャンパスで開催されます。

前回、明治学院大学で社会政策学会の大会が開催されましたのは1968年(第37回大会)でした。実に43年ぶりの開催となります。今年は、戦前の社会政策学会が推進した工場法が制定されてから、ちょうど100年という記念すべき年に当たります。是非、春季大会にご参集されて、政策課題を共有する学会員同士で大いに意見交換、情報交換をしていただきたい、そのための触媒の役割を明治学院大学が演じられる

ということは、明治学院大学の社会政策学会員(河合克義、岡伸一、西村万里子、笹島芳雄)にとりまして大変光栄であると思っております。実行委員会一同、皆様にご満足いただけるような態勢づくりの努力を致します。できるだけ多くの会員が参加し、熱心な議論が展開されることを心より期待しております。

第122回大会実行委員長 笹島芳雄

3. 第122回(2011 春期)大会プログラム

第1日 5月21日(土)

9:30~11:30 テーマ別分科会

<テーマ別分科会・第1>

[2号館 2301 教室]

雇用平等の現段階

[ジェンダー部会]

座長：木本喜美子(一橋大学)

コーディネーター：湯澤直美(立教大学)

1. 雇用平等と政策課題

清山 玲(茨城大学)

2. 女性の就業と家事のアウトソーシング

Margarita Estévez-Abe(シラキュース大学)

<テーマ別分科会・第2>

[2号館 2302 教室]

イギリス MIS(Minimum Income Standard)手法による最低生活費の算定：日本への適用

座長・コーディネーター：阿部 彩

(国立社会保障・人口問題研究所)

1. 日本における MIS 手法の適用—単身若年男女と子どもの最低生活費の算定

卯月由佳(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス院生)

阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)

重川純子(埼玉大学)

山田篤裕(慶応義塾大学)

岩永理恵(神奈川県立保健福祉大学)

2. MIS による最低生活費の意味と算出結果の解釈—他の算定との比較

岩田正美(日本女子大学)

＜テーマ別分科会・第3＞ 【2号館 2101 教室】

非典型雇用の多様性—社会政策への示唆

〔雇用・社会保障の連携部会〕

座長：石川公彦(一橋大学)

コーディネーター：高田一夫(一橋大学)

1. アメリカの病院組織とその管理—看護師の派遣労働という視点から

早川佐知子(明治大学院生)

2. 若年ホームレスの就労経験に関する分析—就労自立から安定喪失、就労困難まで—

飯島裕子(一橋大学院生)

11:30～13:00 昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

13:00～17:00 共通論題

変化する教育訓練とキャリア形成 【3号館 3201 教室】

座長：仁田道夫(東京大学)

報告1：企業における人材育成の現状と課題

佐藤 厚(法政大学)

報告2：学校が担うキャリア教育・職業教育—「包括性」と「連携」をキーワードに—

浦坂純子(同志社大学)

報告3：「戦後公共職業訓練の史的展開とその現状」

平沼 高(明治大学)

総括討論

17:15～18:00 総会 【3号館 3201 教室】

18:30～20:30 懇親会【バレットゾーン2階インナー広場】

第2日 5月22日(日)

9:30～11:30 テーマ別分科会・自由論題

＜テーマ別分科会・第4＞ 【2号館 2301 教室】

オーラルヒストリーによる労働史の可能性 【労働史部会】

座長・コーディネーター：市原 博(駿河台大学)

1. オーラルヒストリーによって何を分析するのか？

梅崎 修(法政大学)

2. オーラル・ヒストリーによる現代史研究への貢献：希望学 釜石製鐵所調査を中心に

青木宏之(高知短期大学)

＜テーマ別分科会・第5＞ 【2号館 2302 教室】

ドイツ「求職者基礎保障」が提起するもの—最低生活基準・自立支援・実施体制—

座長・コーディネーター：布川日佐史(静岡大学)

1. 最低生活費算定の制度的課題と公的扶助—ドイツ連邦憲法裁判所基準額違憲判決を手がかりに—

嶋田佳広(札幌学院大学)

2. 求職者基礎保障制度における支援と要請

嵯峨嘉子(大阪府立大学)

3. 求職者基礎保障の実施主体をめぐって—地域雇用政策の担い手はだれか？—

武田公子(金沢大学)

＜自由論題・第1 医療・介護＞ 【2号館 2101 教室】

座長：石川公彦(一橋大学)

1. 急性期医療のための医療制度改革—「社会的入院」概念の拡大—

山路克文(皇學館大学)

2. 介護老人施設における医療的ケアに対する実態と課題

高橋幸裕(一橋大学院生)

佐々木由恵(日本社会事業大学)

3. 高齢者介護施設における多職種間連携に関する研究

工藤健一(東北福祉大学)

＜自由論題・第2 人事＞ 【2号館 2102 教室】

座長：前浦徳高(労働政策研究・研修機構)

1. 日本企業の株主構成と雇用調整

福田 順(京都大学院生)

2. 「新職能資格制度」と職務重視型能力主義の再編成—三菱電機の1978年人事処遇制度改訂

鈴木 誠(労働政策研究・研修機構)

3. 人事考課制度が導入された学校現場の現状—ある自治体の事例からの知見—

岩月真也(同志社大学院生)

11:30～12:50 昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

12:50～14:50 テーマ別分科会・自由論題会

＜テーマ別分科会・第6＞ 【2号館 2301 教室】

地方分権と福祉政策—日本およびスウェーデンにおける政策の方向性 【保健医療福祉部会】

座長：三重野卓(山梨大学)

コーディネーター：藤澤由和(静岡県立大学)

1. 分権化／広域化のなかの介護保険制度の再構築—保険(提携)と相互扶助(提携)の混合から併存へ—

神山英紀(帝京大学)

2. スウェーデンの社会福祉サービス供給のあり方—分権的権限配分と質の保証—

伊集守直(静岡県立大学)

＜テーマ別分科会・第7＞ 【2号館 2302 教室】

労働再規制—日韓比較の視点から
〔産業労働部会・労働組合部会〕

座長：白井邦彦(青山学院大学)
コーディネーター：上原慎一(北海道大学)
兵頭淳史(専修大学)

1. 非正規労働者の労働再規制をめぐる諸問題—労働者派遣法を中心に
五十嵐仁(法政大学)
2. 韓国における非正規労働に対する規制緩和 vs 再規制
金元重(千葉商科大学)

＜自由論題・第3 生活保障＞ 【2号館 2101 教室】

座長：菊地英明(武蔵大学)

1. 韓国における貧困の動態と社会保障の効果
五石敬路(東京市政調査会)
2. 退職後・老後の生活資金ニーズと年金担保貸付制度の意義
真屋尚生(日本大学)
3. 日本の企業福祉—格差社会から考える
櫻井善行(名古屋市立大学)

＜自由論題・第4 地域と失業＞ 【2号館 2102 教室】

座長：中澤秀一(静岡県立大学)

1. 大量「失業」地域の住民の「生活」と「労働」 福岡県筑豊・大牟田地域の質的調査から— その1
高林秀明(熊本学園大学)
2. 大量「失業」地域の住民の「生活」と「労働」 福岡県筑豊・大牟田地域の質的調査から— その2
都留民子(県立広島大学)
3. 中国西部農村における労働力流動の効果分析—四川省と重慶市を中心に—
陳波(中央大学)

15:00～17:00 テーマ別分科会・自由論題

＜テーマ別分科会・第8＞ 【2号館 2301 教室】

外国人労働者並びにその家族の就業・生活問題とソーシャル・ネットワーク形成の課題
〔非定型労働部会〕
座長：伍賀一道(金沢大学)
コーディネーター：長井偉訓(愛媛大学)

1. 多文化共生のためのソーシャル・ネットワーク形成の課題
小松史朗(近畿大学)
2. 日系外国人労働者並びにその家族の就業・生活実態とソーシャル・ネットワーク形成の課題
友延秀雄(ゼネラルユニオン)

＜テーマ別分科会・第9＞ 【2号館 2302 教室】

東アジア比較社会政策の対象としての中国社会政策
〔日本・東アジア社会政策部会〕

座長：澤田ゆかり(東京外国語大学)
コーディネーター：朴光駿(佛教大学)

1. 日本における中国社会政策研究の動向と課題
王文亮(金城学院大学)
2. 東アジア社会政策比較研究の限界と課題: 中国社会政策の場合
朴光駿(佛教大学)

＜自由論題・第5 リーダーと組織＞ 【2号館 2101 教室】

座長：布川日佐史(静岡大学)

1. 戦後経済復興とリーダー達—大原総一郎を中心に—
兼田麗子(早稲田大学)
2. 社会契約論と協働組織論の間
高橋聡(岩手県立大学)

＜自由論題・第6 女性労働と生活＞ 【2号館 2102 教室】

座長：深澤 敦(立命館大学)

1. 戦後の在来型産業における女性たちの労働
—生活過程(1)—職場における労働と労務管理—
勝俣達也(常磐大学)
2. 戦後の在来型産業における女性たちの労働
—生活過程(2)—女性労働と家族生活展開—
木本喜美子(一橋大学)

4. 第123回(2011 秋期)大会のお知らせ

第123回大会を下記のとおり開催することとなりました。会員の皆さま、テーマ別分科会企画、自由論題報告への応募をはじめ、奮ってご参加ください。

1. 開催校・日時

2011年10月8日(土)、9日(日)に、京都大学(大会実行委員長・久本憲夫代表幹事)においての開催となります。

1日目の8日にテーマ別分科会・自由論題報告分科会・書評分科会・総会・懇親会、2日目の9日に共通論題を行います。

2. 共通論題

(1) テーマ：健康のための社会政策

123回大会の共通論題テーマは、「健康のための社会政策」です。

ここでは、人々の健康状態が損なわれた状況——心身の弱まった、十分に働けない、ケアを必要とする状況——を取り上げ、そこに到る社会的メカニズムを分析するとともに、それに対して社会政策は何ができるかについて、広く議論していきたいと思っております。

〔趣旨〕 近年、職場での働きすぎやストレスで心身の健康を損なう人々が増加する一方、収入状況の悪さ・不安定さが病気につながるなど、所得格差が健康格差につながっていることが指摘されています。社会の労働・生活保障のあり方が、一人一人の健康状態に影響を与えているのです。

健康を失う状況は、個人や家族の生活にも、企業や労働市場にも、医療・社会保障制度にも大きな損失をもたらし、同時にそうした人々を支える社会的仕組みを要請しています。OECDの"Sickness, Disability and Work"プロジェクトのように、「働けない」状態の増大は世界的な問題となっていますが、日本では働き盛りの過労自殺や低所得高齢者の孤独死のように、より追い込まれた形として表れているようです。

この共通論題においては、まず、社会のどのような仕組みが健康に影響を及ぼしているか、各報告から、企業内の働き方や個人・家庭での生活をめぐる現状と問題点の分析を行っていきます。それをベースとした上で、社会政策は一人一人の健康のために何をなすのか、社会全体でそうした状況に対応するためにどのようなシステムをつくっていけばいいか、という問題に踏み込んで議論していきたいと考えています。

(2) 報告の構成

報告 1. 過労死・過労自殺の現状分析と政策的対応

川人博(川人法律事務所、弁護士)

報告 2. 働く現場でのメンタルヘルス問題の現状分析と政策的対応

松崎一葉(筑波大学、精神科医)

報告 3. 所得格差と健康格差問題の現状分析と政策的対応

近藤克則(日本福祉大学、医師)

報告 4. ケアをする人々(ケアラー)の現状分析と政策的対応

笹谷春美(北海道教育大学)

※報告タイトルは現在調整中で、すべて仮題です。

コメンテーター：熊沢誠(甲南大学名誉教授)

3. テーマ別分科会企画、自由論題報告の公募予定

5月初めから公募を開始し、5月末～6月初旬に締め切る予定としています。詳細については、学会メールおよびホームページ等に応募様式とともに公開する予定です。ご準備いただき、ふるってご応募ください。

第123回秋季大会企画委員長 田中洋子

5. 2010年度秋季(第121回)(愛媛大学)大会に関して

1. 開催に当たって

社会政策学会第121回秋季大会は予定通り、10月30日(土)と31日(日)の2日間にわたり城北キャンパスにおいて開催された。

前日から季節外れの大型台風が四国に急接近しつつあるという予報が出されていたために、「大荒れの学会」になるのではないかと懸念されたが、幸い飛行機やフェリーなどの交通機関への重大な影響もなく、無事開催することができた。

但し、悪天候を心配された会員から不参加の旨の連絡も何件かあったし、台風の接近さえなければもっと多くの参加があったと思われる。とはいえ、会員並びに非会員を含めて279名(事前申込:一般162名、院生20名、当日申込:一般87名、院生10名)の参加申込があった。

懇親会は通常初日の学会終了後開催される総会がなかったということもあり、夕方5時半から大学生協食堂1階ホールにて行われた。参加者は、156名で大盛況であった。

今大会の運営に於いて実行委員会としてとくに工夫したことは以下のような点であった。

一つ目は、懇親会担当の丹下会員のアイデアで、懇親会で出される料理やお酒に関するメニューが配布され説明されたが、これは学会史上初めての試みであったように思える。実行委員会においても、大会運営において一番の気掛かりは懇親会で提供される料理やお酒であった。

お酒に関しては、東雲大学の桐木会員のご尽力により日本酒造組合から銘柄酒とタオルをご提供いただいた。この場をお借りして厚くお礼を申し上げたい。

料理に関してとくに留意した点は、量もさることながら、料理の質とお出しするタイミングであった。出来るだけ油物は少なくし、瀬戸内海や宇和海で取れた新鮮なお魚を中心に、肉や野菜も出来るだけ地元産の物を出していただいた。お陰様で、タイミング良く繰り出されてくる美味しい料理に、皆さん、舌鼓を打ちながら、最後までご歓談頂き、大満足であったように思われる。

実行委員会として、懇親会にはかなりこだわりがあったので、本当に嬉しく思うと同時に、我々のうるさいリクエストにもかかわらず、最大限の努力をして頂いた愛媛大学生協のスタッフの皆様にご感謝申し上げます。

二つ目は、休憩室の湯茶コーナーに、今や全国的にも珍しい“労研饅頭”(昭和初期に倉敷の労働科学研究所において中国の饅頭を日本人向けに改良し製造・販売したのが始まりで、松山では「夜学生に学資を」という目的で製造・販売された)を100個ほど用意させていただいたことである。

これも大変好評だったようで、希望者全員に行き渡らなかったようで大変申し訳なく思っている。

三つ目は、受付で配布する資料をととても丈夫な布製のエコバックに封入してお渡ししたことである。

これは同僚の赤間道夫氏が経済学史学会の全国大会を愛媛大学で開催された際のアイデアを真似たものだが、バックの裏面の真ん中から少し下辺りに“Society for the Study of Social Policy 121st Conference 30-31 October 2010 at Ehime University”をやや控えめに印刷したのはユニークなものである。

これは海外の学会に参加した折に、同じようなケースがあったので試してみたのだが、今回私たちが用意したエコバックは極めて丈夫な布で縫製されており、資料類の持ち運びの他多面的に活用できる点が自慢である。ちなみに私は授業で配布する資料などの持ち運びに常用しているほどである。

2. 大会運営とその反省点

我々実行委員会は大会運営に当たり、何をいつ頃までにどのように準備すれば良いかさっぱり予想が出来なかった。

そこで私と平尾会員は、第113回の開催校であった大分大学の会員に直接ヒアリングを申し込んだ。

幸い、ちょうど1年前に開催された金城大学での大会前日、阿部会員、石井会員、垣田会員に時間をとって頂き、資料に基づく詳しい説明(一連の詳しい作業内容・作業工程から反

省点まで)を受けたが、そのお陰で大会運営に必要な一連の業務を自分の頭の中でシミュレーションすることが出来ただけでなく、大会運営の不安から解放された。

大分大学の会員の丁寧で親切な説明とアドバイスがなかったなら、大会を成功させることは不可能であったほど、我々にとっては重要な機会となった。それだけでなく、当日の大会運営においても、我々の気がつかない細かいところで気配りを頂いたことにも心より感謝申し上げなければならない。

これを出発点として、12月に第1回の実行委員会を開催した。愛媛大学には私も含めて会員は4人いるが、皆男性会員ばかりなので、近隣の大学から女性会員にも随時実行委員会にご参加いただき、我々の気がつかない点についてアドバイスやご尽力を頂いた。

第1回目の実行委員会において、大会までのスケジュールに基づき、一応役割分担を決めた。

実行委員会の次の大きな仕事はプログラムの作成・印刷・発送であった。

とくに会員へのプログラム発送の時期は、大会の大会開催のおおよそ1ヶ月半前の9月の中旬を予定していたが、海外を含めて約1,200名の会員にプログラムと会費等の振込用紙をいちいち封入し、宛名シールを貼って期日まで発送するにはかなりの時間と手間が必要となることが予想された。

これに関しても大分大学の前例が大いに参考になった。

プログラム並びに封筒、振込用紙の印刷から封入、発送までのすべての作業を印刷屋に発注することにより、これに関わる労力を他の作業に充てることが可能となった。しかも、大分大学の見積価格があったので、これを参考に業者と上手に料金の交渉をすることが出来た。

これについては今年の春の大会を企画されている明治学院大学の笹島会員からも問い合わせがあり、我々の見積書を参考までにお送り申し上げた。

プログラム関係の作業が一段落した後、大会開催前の10日間ほどは大変であった。

最も大変だったことはアルバイト学生への仕事の割り振りであった。アルバイト学生22名(内1名は大学院生の小笠原君)は会員のゼミナールの学生の他、大学院生の小笠原君が事務局長を務めるNPO法人アカメディアの学生5名から構成されていた。

最も悩ましい問題は、アルバイト学生諸君1人1人の業務分担と細かな業務フローの作成と指示であった。これに関しては小笠原君が大分大学の経験を参考にして、シミュレーションに基づき学生1人1人の作業フローを作成してくれたお陰で、当日の運営をスムーズに進行できた。

大会の4日前に、アルバイト学生に対して具体的な作業や遂行に際しての注意事項に関する説明会を開催した。

受付業務には、小笠原君の配慮で主にアカメディアの学生他5名が配置された。学会当日、学生の業務遂行状況を見るために、いくつかの会場を巡回したが、中にはアルバイト学生が椅子にすっかり座り込んでいて心配な会場もないわけではなかったが、総じて、機敏に動いてくれていたように思う。

次に実行委員長として悩ましかったことは、報告者のフルペーパー・レジュメ並びにパワーポイントの添付ファイルが私のパソコンと研究室に集中したことである。

とくに開催までの約1週間の間、いつ送付されてくるとも分からないメールへの対応、散発的ないし集中的に送りつけられてくる段ボール箱の振り分け、とくに当日配布すべき会場、時間帯を段ボール箱に表記する作業は思いの外大変であった。

大会前日の金曜日、授業などでの利用が終了した午後4時頃から、当日配布する資料の封入作業を行った。

それと並行して報告会場の設営を行ったが、時間的な都合でマイクの予備テストをすることが出来なかった。その結果、ある会場の第1報告では、マイク並びにパソコンが使えないところがあった。

大会当日1日目 土曜日初日、業務は受付から始まった。受付のデスクは学会参加費等事前納付と当日納付に分け、受付業務で最も面倒な領収書の発行については、前日より準備をしていたお陰で比較的スムーズに行われた。

その後の運営状況については、マイクなどの不備により第一報告のみハンドマイクで対応せざるを得なかった会場もあった。私が会場を巡察した限りでは、会場での資料配付に関しても適宜行われていたように思える。

大会2日目 共通論題が開催された2日目は、朝から曇天でほぼ終日小雨模様の天候であった。

当日は朝早くから共通論題が開催されるグリーンホールに集合し、会場の設営にあたった。院生やアルバイト学生諸君の機敏な対応により準備が整った。

共通論題第1報告がほぼ予定通りの9時半より始まった。約250名程度収容力のあるグリーンホールはしだいに会員の参加が増え、午前の部が終了する前の11時頃にはほぼ満席状態で、ホールの最上段の長椅子も座りきれないほどであった。

午後からの第4報告終了後、コメンテーターからのコメントがあり、その後総括討論が終了する午後4時頃まで中座される方も少なかった。

以上、大会運営に関して反省点を含めて簡単な総括を行ってきたが、会場となった城北キャンパスは地理的並びに交通機関においても利便性に優れており、この点で特別の配慮の必要性はほとんどなかった。

また、受付から書評分科会・テーマ別分科会・自由論題の会場など、すべてが共通教育棟1カ所で行われたこと。2日目の共通論題は共通教育棟に隣接するグリーンホールで開催されたが、受付並びに会議が行われた共通教育棟や愛大ミュージアムとも隣接しており、各会場間での移動がとても楽に行えたことである。

最後に

最も心配されていた台風の影響もなく、ほぼ予定されていたプログラムに従い大会が成功裡に終わったことを心より嬉しく思っている。これも今回の大会を企画された企画委員並びに報告者の皆様、大会運営に関してご尽力頂いた愛媛大学と東雲短期大学の会員、大学院生並びに学生諸君、そして報告者並びに熱心に討論に参加された多くの会員の皆様に心よりお礼を申し上げたい。

第121回大会実行委員長 長井偉訓

6. 第 121 回(2010 秋期)大会会計報告

【 本会計 】		収入		支出	
	大会開催費 (学会本部)	1,000,000		プログラム・封筒等印刷経費	350,604
	大会開催費追加分 (大会本部)	200,000		消耗品代	78,771
	託児所利用料	20,000		休憩室飲料代等	22,259
				学生アルバイト謝金・弁当代	410,800
				清掃費	14,000
				託児所経費	30,840
				エコバッグ	88,750
				通信費	4,550
				振込手数料	14,700
				学会本部への返納	300,000
	合計	1,220,000		合計	1,315,274
【 別会計 】		収入		支出	
	大学補助金	449,154		懇親会経費	750,630
	コンベンション補助金	200,000		中四国部会への寄付	100,000
	広告収入	92,000		大会開催関係費	200,000
	懇親会費	780,500			
	合計	1,521,654		合計	1,050,630
	収入合計	2,741,654		支出合計	2,365,904
	収支差	375,750			

7. 社会政策関連学会協議会活動報告

本協議会には社会政策学会が加入しています。本協議会の 2010 年度の主な活動は、下記のとおりです。

1. 公開シンポジウム「所得リスクにどう立ち向かうか—社会的包摂のための社会保障」の共催

表記のシンポジウムが、2010 年 6 月 5 日に、同志社大学至誠館 21 号室で開催されました。主催は、日本学術会議社会学委員会・経済学委員会合同「包摂的社会政策に関する多角的検討分科会」、社会政策関連学会協議会、同志社大学ライフリスク研究センター、同志社大学社会福祉教育・研究支援センターでした。開会の挨拶は、古川孝順氏(本協議会代表)、司会は大沢真理氏、講演者は、大塩まゆみ、埋橋孝文、橋本俊詔でした。

参加者は 115 名で、配付資料は 150 部を用意しましたが、全部が持ち帰られました。

2. 研究会「ジェンダーと社会政策—各学協会はどうとらえてきたか」の単独主催

表記の研究会が、2011 年 3 月 4 日(金)17 時 30 分より、明治大学駿河台校地研究棟 4 階第 1 会議室で開催され、45 名以上の参加者があり、盛会でした。話題提供者は、神尾真知子(ジェンダー法学会 司会兼任)、森川美絵(福祉社会学会)、杉本貴代栄(日本社会福祉学会)、清山玲(労務理論学会)、木本喜美子(日本労働社会学会)の各氏でした。

3. 本協議会の HP について

下記アドレスにて公開中です。HP の表紙に、協議会参加の学協会そのほかの大会開催予定が掲示されていて、大変役立ちます。また、上記研究会「ジェンダーと社会保障」の話題提供者のレジメ等は、協議会 HP に掲載の予定です。

社会政策関連学会協議会 HP:

<http://web.mac.com/eastasia2006/social/Home.html>

社会政策関連学会協議会副代表 遠藤公嗣

8. 社会政策関連学会協議会メールニュース No.3

1. 公開シンポジウム「社会サービスのユニバーサル・デザイン—医療・介護・居住の新たな政策課題」開催予定について

表記のシンポジウムの開催が、下記の概要で、予定されています(現時点での概要であって、細部で変更がありえます)。ご参加をご予定ください。なお開催時期が北海道観光のハイシーズンですので、お出かけの時は、ホテル等の予約を早めにする必要があるとのこと。遅くとも 5 月 25 日までは、正式の宣伝広報を開始します。

主 催 : 日本学術会議 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会

共 催 : 社会政策関連学会協議会

日 時 : 2011 年 6 月 25 日(土) 13:00~16:00

場 所 : 北海道大学学術交流会館 小講堂

開会挨拶

岸玲子(北海道大学教授、日本学術会議北海道地区幹事長)
<シンポジウム>

シンポジスト

二木立(日本福祉大学副学長・日本学術会議連携会員)
笹谷春美(北海道教育大学教授・日本学術会議連携会員)
吉田邦彦(北海道大学教授)

コメンテーター

横山純一(北海学園大学教授)
武川正吾(東京大学教授・日本学術会議連携会員)

司 会

大沢真理(東京大学教授・日本学術会議会員)

コーディネーター

笹谷晴美

閉会挨拶

古川孝順(東洋大学教授・日本学術会議連携会員)

2. 協議会主催の研究会「ジェンダーと社会政策—各学協会はどうかとらえてきたか」が盛会のうちに終了

表記の研究会が、2011年3月4日(金曜日)17:30から、明治大学駿河台校地研究棟4階第1会議室で開催され、45名以上の参加者があり、盛会でした。

話題提供者は下記のとおりであり、話題提供者のレジュメ等は

協議会 HP に掲載の予定です。

話題提供者

神尾真知子(日本大学、ジェンダー法学会 司会兼任)

森川美絵(国立保健医療科学院、福祉社会学会)

杉本貴代栄(金城学院大学、日本社会福祉学会)

清山玲(茨城大学、労務理論学会)

木本喜美子(一橋大学、日本労働社会学会)

社会政策関連学会協議会 HP:

<http://web.mac.com/eastasia2006/social/Home.html>

9. 2010 年度専門部会・地方部会活動報告

専門部会報告

日本・東アジア社会政策部会

当部会は、2009年8月に、東アジアの社会政策研究を行うとともに、日本の社会政策を東アジアの視点から研究するための専門部会として新設された。2010年度は、大会におけるテーマ別分科会の開催と、日中韓社会保障国際論壇への協力を中心に活動を行った。

1. 大会への参加

まず、2010年度春季(第120回)大会(早稲田大学)において、テーマ別分科会(第5「東アジア社会政策研究の新しい段階」)に参加した。この分科会では、当部会のキックオフ報告会として、これまでの東アジア研究の成果と限界を踏まえ、新しい段階へと進むための課題を提示した。

座長：田多英範(流通経済大学)

コーディネーター：武川正吾(東京大学)

金成垣(東京経済大学)

企画趣旨「方法としての東アジア」(武川正吾・東京大学)

報告1. 「比較福祉国家研究における段階論と類型論」(金成垣・東京経済大学)

報告2. 「社会政策における『東アジア的な道』」(李蓮花・東京大学)

報告3. 「東アジア地域統合の社会的次元」(武川正吾・東京大学)

次に、2010年度秋季(第121回)大会(愛媛大学)において、テーマ別分科会(第5「東アジア諸国の少産化とその背景」)に参加した。この分科会では、東アジア諸国の顕著な少子化・少産化の実態とその要因、そして政策的対応を、それぞれの国の専門家の報告によって確認し、各国の多様性と共通性を探った。

座長：野口定久(日本福祉大学)

コーディネーター：田多英範(流通経済大学)

報告1. 「中国の少子・高齢化とその社会福祉・経済への影響」(彭華民・南京大学)

報告2. 「韓国における少子化の原因とその対策」(松江暁子・首都大学東京)

報告3. 「台湾の少子化問題の現状と少子化対策に関する一考察」(徐明仿・八戸工業大学)

報告4. 「タイの少子化問題とその対策」(菅谷広宣・岐阜経済大学)

(注：報告1と2は、報告者がやむを得ざる事情により大会に出席できず、座長による報告原稿の代読で報告が行われた。)

2. 社会保障国際論壇への協力

2005年から毎年、日中韓の社会保障/社会政策研究者が集まって開催している「社会保障国際論壇」に関して、2010年度から当部会が日本側の窓口を担当することになり、部会内に小委員会(「社会保障国際論壇準備委員会」)を設置した。2010年9月10~11日に中国成都で論壇が開催されたが、その際、小委員会の活動として、参加者と報告者を募集し、日本から25名前後が参加した。

なお、2011年度には9月3~4日に韓国釜山で論壇が開催される予定であり、小委員会では、4~5月に日本からの参加者と報告者を募集する予定である。

(文責 金成垣)

総合福祉部会

日時：2011年2月5日(土)13:30~17:20

場所：京都府立大学 附属図書館

テーマ：「介護保険の10年を検証する」

座長：上掛利博(京都府立大学)

報告者：

① 辻村禎彰(社会福祉法人宇治明星園常務理事;会員外)
「改めて、誰のための介護保険かを考える」

② 廣末利弥(社会福祉法人七野会理事長;会員外)
「施設経営から見た介護保険10年と施設長のホンネ」

③ 里見賢治(仏教大学)
「介護保険の10年と次期改定の動向」

本年の総合福祉部会は、「介護保険の10年を検証する」という共通テーマを設け、高齢者福祉の現場で活躍されている論客を、会員外から2人迎えて開催された。

報告内容は、①辻村は、「不幸をつくる介護保険」であってはならぬという立場から、一番困っている人に目を向けて介護保険では対応できないことも検討する、すべての国民が老後や介護の不安がないようにすることが求められるとした。

②廣末は、「果たして介護の社会化は実現したか」という観点で、規制緩和がもたらしたものを「措置から契約へ」「民間企業の参入と市場化」「会計基準と経営の自己責任」「職員配置基準と派遣労働」の2点から検証した。③里見は、介護保険の普及は「保険」だから可能だったのではないとする「公費負担方式」(税方式)から立論し、次期(第5期)改定をめぐる地域包括ケアシステムの構築へいたるプロセスを詳細に検討、「社会保険の劣化」について問題提起した。

討論は、介護保険だけでは支えきれない「生活支援」から、マニュアルどおりではないノーマルな生活保障(「自立支援」

との違い)、大都市部と過疎地域の違い、「自宅」で暮らしたいという願いと「施設」を否定する議論の吟味、財源問題にまで多岐にわたった。

参加者は、会員外にも呼びかけた結果 21 名であった。(なお、研究会の案内方式が変わりました。総合福祉部会のメンバーとして案内をメールで受け取りたい方は、ご登録をお願いします。kamikake@kpu.ac.jp)

(文責 上掛利博)

産業労働部会

今年度は第 120～121 回社会政策学会において、以下の通りテーマ別分科会を開催した。

<第 120 回大会>

テーマ「公共職業訓練の現状と課題」

座長：上原慎一

コーディネーター：永田萬享

報告 1. 公共職業訓練の展開とその特徴(永田萬享・福岡教育大学)

報告 2. アメリカにおける低所得者層の就労支援(久本貴志・福岡教育大学)

<第 121 回大会>

テーマ「自営業と女性の就労」

座長：森建資

コーディネーター：上原慎一

報告 1. 小零細企業における妻の仕事とその「技能」について(徳井美智代・北海道大学教育学研究科)

報告 2. 家族農業経営の構造が生み出す農業労働の分業パターン(渡辺めぐみ・龍谷大学)

いずれも多くの会員の参加を得て活発な議論が交わされた。

公共職業訓練に関しては、職業訓練の対象者と訓練方法・訓練内容の現代的特徴と課題についてが論点となった。また、再編が強行されそうな政治状況の中、今後生ずるであろう具体的な問題点についても問題提起がなされた。

自営業と女性の就労に関しては、事前検討会を経て、充分論点を煮詰めて大会に臨んだ。従来重要性を指摘されながら、具体的な姿が未解明であった自営業の「妻」の労働実態について、その概念や多様性、研究の現代的意義にわたって意欲的な問題提起が報告者やフロアからなされた。

現在、122 回大会に向けて、事前検討会の開催を検討中である。なお、122 回大会は労働組合部会と共催で分科会を開催する。

(文責 上原慎一)

労働組合部会

今年度、労働組合部会は第 121 回大会で、「格差社会と労働組合一日米の事例」と題した分科会を開催した。座長は兵頭淳史会員(専修大学)、コーディネーターは山垣真浩会員(大阪経済法科大学)で、会員 2 名が報告した。

伊藤大一会員(大阪経済大学)は、「関西私立大学 O 大学における派遣労働者直接雇用と O 大学労働組合の対応」というテーマで、大学職員の派遣労働者を直接雇用したことに伴う問題と、労働組合の対応について報告した。

チャールズ・ウェザーズ会員(大阪市立大学)は、「アメリカの低賃金労働者と労働組合運動」というテーマで、アメリカにおける低賃金労働者の労働組合運動について、社会運動との連携についての歴史的な推移と最近の運動を検討する報

告を行った。

非典型労働者の増大と運動の拡がり注目されていることもあり、組織化のあり方、同一労働同一賃金や職務給、生計費原則についての評価などで活発な議論が行われた。

参加者は約 50 人であった。

(文責 長谷川義和)

非定型労働部会

1. 全国大会への参加

2010 年度第 120 回春季大会(於:早稲田大学)において、テーマ別分科会第 4 『『改正パートタイム労働法』と均等・均衡待遇原則』で参加した。報告者と報告テーマは以下の通りである。

第 1 報告 畑井清隆(志學館大学)「パートタイム労働政策の方向性」

第 2 報告 青山悦子(嘉悦大学)「パートタイム労働者に対する雇用管理の現状と課題—『改正パートタイム労働法』との関連で—」

第 3 報告 竹信三恵子(朝日新聞社)「『改正パートタイム労働法』と欧州の動き」

全体の報告を通して、均等待遇を原則とする欧州と比較して、我が国の「改正パートタイム労働法」の意義と限界が明らかにされたように思える。会場には多くの会員の参加が見られ、報告後の質疑においても活発な議論が展開された。

2. 部会研究会

2011 年 3 月 26 日(土)14:00 から大阪経済大学 B 館 34 号教室において開催。

報告者と報告テーマは以下の通りである。

第 1 報告 小松史朗(近畿大学短期大学部)「多文化共生のためのソーシャル・ネットワーク形成の課題」

第 2 報告 友延秀雄(ゼネラルユニオン書記次長)「日系人外国人労働者及びその家族の就業・生活実態とソーシャル・ネットワークの現状・課題」

参加者は 12 名であった。

今回の例会は第 122 回春季全国大会(5 月 21～22 日明治学院大学於)でのテーマ別分科会(「外国人労働者並びにその家族の就業・生活問題とソーシャル・ネットワーク形成の課題」)のプレ報告会であった。お二人の報告者からはそれぞれの課題に関して詳細な報告があり、活発な議論が行われた。研究会終了後、大学周辺の居酒屋にて報告者を囲んで懇親を深めた。

(文責 長井偉訓)

地方部会報告

東海部会

社会政策学会東海部会 2010 年度(第 12 回)研究会を下記のとおりに開催した。

日時：2010 年 12 月 18 日(土) 13:00～17:30

場所：中京大学 名古屋キャンパス

センタービル 8 階 08B 教室

参加者：19 名

以下の研究報告とそれにもとづく討論がおこなわれた。

①「1984 年イギリス炭鉱争議の争点と労使関係上の意義」

木村牧郎(名古屋市立大学経済学部研究員)

②「1980年代以後のスウェーデンでの職務設計の理論とその評価—日本、欧米との比較をつうじて」

田村 豊(愛知東邦大学経営学部)

③「中国・東北部 A 村における高齢者扶養状況に関する調査報告」

任 娜(金城学院大学大学院博士課程)

④「日本の企業福祉研究—何が見えてきたのか」

櫻井善行(名古屋市立大学経済学研究科研究員)

近年にない多数の参加者と活発な討論により、きわめて有意義な研究会であった。なお、研究会後には懇親会も行い部会会員の親睦を深めた。

(文責 木村隆之)

関西部会

第73回社会政策学会関西部会を下記のように開催した。

日時：2010年12月4日(土)10:30～16:30

場所：大阪経済大学B館3階32教室

参加者：29名

<午前の部>

(1) 小室昌志(同志社大学大学院社会学研究科)

「私立大学職員の雇用形態の変化等に関する一考察—正規雇用職員と有期契約職員の分析を中心として—」

(2) 黄声遠(大阪経済大学大学院経済学研究科)

「中国の年金保険制度に関する一考察」

<午後の部>

特集「シリーズ 東アジアの労働問題と社会保障(1)」

(1) 李捷生(大阪市立大学)「中国の労働市場の変容」

(2) 竇少杰(同志社大学)「近年の中国における労使関係の変容—労働契約法・工会・派遣労働について—」

(3) 梁京姫(大阪市立大学)「韓国の非正規職と女性」

今回と次回で「東アジアの労働問題と社会保障」を取り上げることになり、今回は、「労働問題」を主要テーマに開催した。

午後の部では、コーディネーターとして大阪経済法科大学の山垣真浩会員に参加して頂き、総括討論では積極的な質問があり、部会は盛況にうちに終了した。

(文責 櫻井幸男)

中四国部会

2010年9月25日(土)13:00～17:45 愛媛大学法文学部本館2F中会議室に於いて中四国部会研究会を開催。

報告者並びに報告テーマは以下の通り。

第1報告 吉田誠(香川大学)

「ドッジ・ライン下における日産自動車の人員整理—レッド・ページとピンク・ページ—」

第2報告 田中きよむ(高知女子大学)

「中山間地における高齢者等の移動ニーズと移動支援—高知県大豊町の実態調査をふまえて—」

第3報告 加賀孝道(広島大学大学院・院生)

「小企業労働者のキャリア形成と職場の活性化」

第4報告 横田伸子(山口大学)

「1990年代以降の韓国の就業体制の変化—労働力の非正規化を中心に—」

報告終了後、愛媛大学セトリアンにおいて、懇親会を開催した。今回の研究会は、10月に開催予定の秋季大会のプレミニ学会として位置付け、報告者への報告の依頼を行った。参加者は大学院生も含めて14名であり、報告並びに懇親会とも大変盛況であった。

(文責 長井偉訓)

九州部会

1. 九州部会第91回研究会を下記の通り開催した。

日時：2010年9月18日(土)13:30～17:30

場所：西南学院大学(福岡市早良区)

報告：

(1) 土井徹平(西南学院大学非常勤講師)

「1900年代から1910年代の鉱業における労働市場と雇用—坑夫の同職集団「友子」の運営記録を用いて—」

(2) 福井祐介(西日本短期大学非常勤講師)

「コミュニティ・ユニオンの10年—組合員意識に関する2000年調査と2010年調査から—」

出席者：9名

懇親会：開催

出席者、報告者がやや固定化しがちな中、ご自分から手を挙げて頂いた土井会員には感謝します。また福井会員には長らく取り組んできたテーマをわかりやすくまとめて頂いて、ありがとうございます。

2. 九州部会第92回研究会を下記の通り開催した。

日時：2011年2月19日(土)13:30～17:30

場所：九州大学経済学部(福岡市東区)

報告：

(1) 池田和彦(筑紫女学園大学)

「生活保護制度をめぐる近年の動向と今後の課題」

(2) 伊佐勝秀(西南学院大学)

「中国における労働経済学のエデュケーション」

出席者：11名

懇親会：開催

池田会員はいきよりの依頼に正直驚かれたとのことですが中長期の流れについて興味深い報告をして頂いた事に感謝です。伊佐会員の報告では学生向け教科書を題材にするというアプローチが方法論の広がりという点で示唆的でした。

開催校の久野国夫会員にはお手数頂き感謝します。

(文責 平木真朗)

※その他の専門部会・地方部会活動報告は次号以降のニューズレターに掲載いたします(事務局)。

10. 西村豁通名誉会員のご逝去について

社会政策学会の活動に長年にわたって積極的に関与していただいた西村豁通名誉会員(同志社大学名誉教授)が、12月3日21時46分に内臓の衰弱により、逝去されました。告別式は家族葬として、12月6日に執り行われました。

西村名誉会員の学会への多大な貢献に感謝するとともに、哀悼の意を表します。

社会政策学会代表幹事 久本憲夫

11. 2008—2010 年 期幹事会議事録

第 16 回幹事会議事録

- (1) 名称：社会政策学会 2008-2010 年第 16 回幹事会
(2) 日時：2010 年 6 月 18 日(金)13:45～17:15
(3) 場所：早稲田大学 11 号館第 1 会議室
(4) 出席：阿部、石井、岩田、遠藤、菅沼、鈴木、田中、玉井、久本、平岡、室住、森、矢野、吉村 (14 名)
垣田(オブザーバー)
欠席：埋橋、小笠原、小越、佐口、都留、布川、藤澤、宮本、沈、山本
- (5) 議題：
1. 会員の入会・退会
入会申込書が回覧され、18 名の入会が承認された。あわせて、1 名の退会が報告された。
 2. 2009 年度活動報告
阿部代表幹事より、2009 年度の活動報告が行われ、了承された。
 3. 2009 年度決算案
石井幹事より、「社会政策学会 2009 年度決算書」にもとづいて決算案の提案が行われ、了承された。なお、幹事から旅費規程の全額支給についての意見が出され、今後検討することとした。
 4. 2010 年度活動方針案
阿部代表幹事より、2010 年度の活動方針案が提案され、一部修正のうえ了承された。また、学会の法人化や資金管理のあり方等について意見を交換した。
 5. 2010 年度予算案
石井幹事より、2010 年度予算案が提案された。本年度予算案では、前回幹事会の議論をふまえて大会開催費の改定が行なわれるとともに、部会活動費を増額したことが報告された。意見交換の後、予算案は了承された。
 6. 2010 年度会員総会の議事について
阿部代表幹事より、2010 年度会員総会議事の提案が行われ、了承された。
 7. 学会賞選考委員会報告
遠藤委員長より、学会賞選考委員会による学会賞選考経過の報告が行われ、学術賞は該当なし、奨励賞は 2 作品に授与することが報告された。
 8. 秋季大会企画委員会報告
小笠原委員長の提出資料にもとづいて、121 回大会の準備状況や報告の公募状況が阿部代表幹事より報告された。秋季大会のテーマ別分科会企画・自由論題報告公募について、翌日の総会で再度アナウンスを行うこととした。
 9. 編集委員会報告
平岡委員長より、学会誌の刊行予定、論文投稿・審査の状況について報告が行われた。あわせて、今期のまとめと今後の課題について報告された。共通論題の査読については、企画委員会で行うこととしていたが、今後は編集委員会を実施する方向で検討していることが報告された。また、今秋の出版契約の更新について、幹事間で意見交換した。その結果、現在の契約条件と基本的に同じであることを前提として契約を更新する方向で出版社と交渉に入ることとした。契約条件が変わる場合には、相見積もりなどを通じて委託する出版社を再検討することとした。なお、幹事から出版契約更新の際に、表紙の装丁も再検討するとの意見が出された。この

他、投稿を増やすための方策について幹事間で意見交換した。

10. 広報委員会報告
菅沼委員長より、研究会等の情報については、担当者の負担の大きいメール転送サービスを取りやめ、代替策として「研究会情報」を利用するとの提案が行われ、了承された。なお、学会活動等に関する本部や幹事会からの連絡はこれまで通り転送するが、大学等の人事案件については就職情報のサイトがあるので今後は転送しないこともあわせて了承された。
11. 国際交流委員会報告
宮本委員長の提出資料にもとづいて、矢野幹事より報告が行われ、引き継ぎ事項が確認された。
12. 規程の改正について
阿部代表幹事より、春季大会企画委員会規程および秋季大会企画委員会規程の改正案について確認が行われた。
13. 第 120 回大会実行委員会報告
鈴木幹事より、第 120 回大会の準備状況の報告が行われた。プログラムに関連して、各種委員会会場の記載に一部不備があるとの指摘があり、今後はこうしたことが生じないよう次期開催校に申し送りをするよう意見が出された。
14. 今後の大会開催校について
阿部代表幹事より、今後の大会開催校の確定分と候補について報告が行われた。2012 年の春季(第 124 回)大会は、駒沢大学で開催されることになった。
15. 日本学術振興会有志賞の候補者推薦について
阿部代表幹事より、日本学術振興会有志賞の推薦候補者の募集案について報告が行われた。幹事間で意見交換をした結果、推薦枠が 1 名と少ないため、選考の対象となる者を学振特別研究員(DC)採用者で二名の推薦を得られる学会員とし、推薦を希望する者がいれば代表幹事および幹事数名が選考にあたることとした。
16. 会費未納者への対応について
石井幹事より、会費未納者への対応について、前回の幹事会の議論を踏まえて、5 年以上未納者に督促を出しており、期日までに納付されない場合は、次期幹事会の議を経て、自然退会扱いとすることが再確認された。
17. その他
室住幹事より、日本経済学会連合の英文年報の原稿執筆について、阿部代表幹事が引き受けたとの報告が行われた。

第 17 回幹事会議事録

- (1) 名称：社会政策学会 2008-2010 年第 17 回幹事会
(2) 日時：2010 年 6 月 19 日(土)11:45～12:20
(3) 場所：早稲田大学 7 号館第 305 教室
(4) 出席：阿部、石井、埋橋、小越、菅沼、鈴木、田中、久本、藤澤、森、矢野、吉村 (12 名)
垣田(オブザーバー)
欠席：岩田、遠藤、小笠原、佐口、玉井、沈、都留、平岡、布川、宮本、室住、山本
- (5) 議題：
1. 会員の入会・退会
入会申込書が回覧され、4 名の会員の入会が承認された。
 2. 2010 年度会員総会の議事について
阿部代表幹事より、総会の進行について確認がなされ、了承された。

3. 経済学会連合報告

小越幹事より、12月22日に開催予定の60周年記念講演会について報告があった。

4. 第120回大会実行委員会報告

鈴木幹事より、今大会の参加状況等について報告が行われた。各分科会場の状況や報告資料の集まり具合についても報告が行われた。

5. 日本学術振興会育志賞の候補者推薦について

阿部代表幹事より、日本学術振興会育志賞の推薦について、昨日の幹事会の議論をふまえて、社会政策学会としての

推薦者の選考方法について確認が行われ、了承された。学会員に向けて、メールおよび学会ホームページにて周知することとした。

6. 秋季大会企画委員会報告

埋橋幹事より、第121回(2010年度秋季)大会での報告募集について、本日の総会でアナウンスすることが提案され、了承された。募集期間の延長について検討することとした。

※ 事情により、2008-2010年期幹事会の議事録の掲載を見送ってきました(事務局)。

12. 2010—2012年期幹事会議事録

第2回幹事会議事録

(1)名称：社会政策学会 2010-2012年期第2回幹事会

(2)日時：2010年10月29日(金)15:00~18:30

(3)場所：愛媛大学・愛大ミュージアム3F会議室

(4)出席：菅沼、禹、布川、矢野、所、佐藤、笹島、遠藤、佐口、田中、小笠原、都留、久本
オブザーバー：林(事務局)

欠席：関口、石井、王、鹿嶋、武川、猪飼、居神、埋橋、野村、大沢

(5)議題

1. 会員の入会・退会

8名の入会が承認された。

2. 第120回大会会計報告

早稲田大学の鈴木元幹事が作成した第120回大会会計報告の文書を事務局が代読した。

代表幹事より、今後、学会本部より支給する学会開催費120万円(100万円+追加分20万円)について、支出が120万円を下回った場合、開催校からできれば100万円を超える部分について学会本部に返金してもらい、100万円の範囲内であれば、残額は開催校で処理するように取り扱うことが提案され、了承された。

3. 春季大会企画委員会報告(共通論題の準備状況、分科会・自由論題の募集手続き)

春季大会企画委員会委員長の布川幹事より、第122回大会共通論題「変化する教育訓練とキャリア形成」の準備状況について、司会・報告者の確定を進めているところであるという報告があった。また、学会開催日は開催校の笹島幹事と相談し、現在のところ、共通論題の司会・報告候補者の都合がよい5月21日・22日を考えていることが報告された。

テーマ別分科会・自由論題の報告募集は第121回大会の終了後速やかに開始すること、その締め切りについて2011年1月21日を予定していること、プログラム作成は1月29日を予定していること、2月末にプログラム原稿を開催校に引き渡すことを予定していることが報告され、了承された。

4. 第122回大会実行委員会報告

第122回大会の準備状況について開催校の笹島幹事から大学で行われる補講、父母会、オープンキャンパスとの兼ね合いを考えながら教室の確保を進めているとの報告があった。

大会開催日について外部より問い合わせがあることから、開催日が決定され次第、ホームページ等で告知することになった。

5. 編集委員会報告

編集委員会委員長の禹幹事から、下記の通りの報告があり、

意見交換がなされた。

『社会政策』2巻2号の刊行が遅れていることが報告され、2010年12月に発行するための善後策について意見交換がなされた。意見交換の結果、今後、雑誌原稿の入稿期限を過ぎても、著者より原稿が提出されない場合は、編集委員長より幹事会に遅延の発生を報告し、編集委員長と著者の間で協議を行ったうえで、代表幹事が原稿の取り扱いについて総合的に判断することになった。また、共通論題報告をもとにした特集は、大会開催日までは企画委員会が責任を持ち、大会開催後は編集委員会が原稿を収集し、刊行までの作業に責任を持つことになった。

今後の刊行スケジュールについて、2巻3号を2011年2月、3巻1号を2011年5月、3巻2号を2011年8月、3巻3号を2011年12月とすることが提案され、了承された。

書評については毎号の掲載を目指すことが提案され、了承された。また、書評分科会開催後に報告者に執筆をお願いし、執筆され次第、雑誌に掲載していくことになった。

さらに、秋季大会企画委員会が書評の候補者を決定したのち、編集委員会に通知することが確認された。なお、書評分科会のあり方について今後検討していく必要があることが確認された。

研究動向紹介は、レビュー論文、座談会、「回顧と展望」などがあるが、後日行われる編集委員会ですべての形式が望ましいかを審議し、その結果をもって直ちに編集委員会がその準備に取り掛かることが提案され、了承された。

企画委員会と編集委員会が連名で大会開催直後に、テーマ別分科会担当者に特集テーマの企画提案を依頼することになった。ただし、雑誌には紙幅に限りがあるため、どのテーマを掲載するかは編集委員会において審議を行ったうえで、幹事会で報告したのちに決定されることが確認された。

その他に、3巻2号の特集テーマについて報告があり、特集タイトルについてさらに検討を加えることを条件に承認された。

編集委員会副委員長の佐藤幹事から、査読の状況について報告があった。

投稿本数が増加している一方、採択本数が増加していないことについて、若手の投稿が増加していることが背景にあるという説明があった。査読は若手を育てるために、改訂を促進するように行うという方針が確認された。また、中堅・ベテランからの投稿も奨励する必要があるということが提案された。

その他に、学会誌のCinii登録や電子ジャーナル化について、出版社と協議することになった。

代表幹事から、編集委員会の業務が大幅に増加しているため、増員を検討するなど、負担軽減をはかる必要があるこ

とが提案され、継続して議論していくことになった。

6. 国際交流委員会報告

国際交流委員会の矢野幹事より、韓国社会政策学会との交流について前向きに進めることが提案され、了承された。また、韓国以外の他の国の学会との学術交流について今後検討していくことになった。

代表幹事が外国向けの社会政策学会紹介記事を執筆し、ホームページに英語、中文、繁文、ハングルで掲載することになった。

7. 社会政策関連学会協議会

社会政策関連学会協議会の遠藤幹事より、「社会政策関連学会協議会メールニュース」を学会員に転送することが提案され、了承された。

2011年3月4日(金)に協議会主催で開催される「ジェンダーと社会政策—各学協会はどうとらえてきたか」における社会政策学会からの報告は、ジェンダー部会会員にお願いすることが提案され、了承された。

8. 秋季大会企画委員会

秋季大会企画委員会の田中幹事から大会の実施状況について、台風接近に伴う問題等について説明があった。

9. その他

代表幹事より、学会賞選考委員として新たに森建資会員、伍賀一道会員が新たに選出されたことが報告された(任期は2012年5月まで)。

事務局より、『会員名簿および会則等』の作業の進捗状況、ニューズレターの発行予定について説明があり、意見交換を行った。

第3回幹事会議事録

(1)名称：社会政策学会 2010-2012 年 第3回幹事会

(2)日時：2010年10月30日(土)11:45~12:30

(3)場所：愛媛大学・愛大ミュージズ 3F 会議室

(4)出席：菅沼、布川、矢野、所、笹島、遠藤、鹿嶋、佐口、小笠原、関口、武川、埋橋、久本
オブザーバー：高田、林(事務局)

欠席：石井、王、猪飼、居神、野村、大沢、禹、田中、佐藤、都留

(5)議題

1. 会員の入会・退会

2名の入会が承認された。

2. 専門部会名称の変更について

少子高齢部会世話人の高田会員より、専門部会名称の変更について提案があり、高田会員と幹事との間で意見交換を行った結果、「雇用・社会保障の連携部会」と改称することについて、幹事会として了承した。

3. 法人会員の開設について

代表幹事より、シンクタンク等を対象として、法人会員制度を新設してはどうかと提案があった。幹事からは学会の発展につながる形であることが必要であること、法人会員の範囲が特定しにくいこと、法人会員の増加により会員数が増加したのち、何かの景気で会員数が減少した場合に学会財政の再整理が必要となること、投票権、ジャーナルへの投稿権をどうするかということなど様々な整理を行うべきであることが指摘され、今後継続して審議していくことになった。

4. 国立情報学研究所のウェブサーバサービスの廃止について

国立情報学研究所のウェブサーバサービスが2012年3月をもって廃止されることになったことが事務局より報告された。意見交換の結果、代表幹事と編集委員会で対応について検討したうえで、次回の幹事会で対応について審議することになった。

13. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
11年2月5日承認分		
難波 早希	東京大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉
卯月 由佳	文部科学省生涯学習政策局	社会保障・社会福祉
李 忻	日本福祉大学福祉経営学部	社会保障・社会福祉
松川 誠一	東京学芸大学教育学部	ジェンダー・女性
柳原 剛司	京都大学大学院文学研究科	社会保障・社会福祉
是川 夕	内閣府経済社会総合研究所	社会保障・社会福祉
勝俣 達也	常磐大学国際学部	労働史・労働運動史
加藤壮一郎	埼玉大学大学院経済科学研究科	社会保障・社会福祉
佐々木由恵	日本社会事業大学	社会保障・社会福祉
黒川 太一	日本大学櫻丘高等学校	社会保障・社会福祉

お知らせ 「社会政策学会研究会情報」の更新情報をお手持ちのパソコンのブラウザに配信しています

学会では会員の皆様に、学会に関連する研究会の開催情報を「社会政策学会研究会情報」(http://d.hatena.ne.jp/sssp_information/)より発信しています。

お手持ちのブラウザのRSS機能を活用しますと、「社会政策学会研究会情報」が更新されたさい、更新情報がブラウザに自動的に配信され、2010年6月まで行っていた研究会情報のメール配信と同等の利便性を維持できます。

学会ではInternet Explorer、Safari、FirefoxでのRSS登録方法をPDFにて説明しています。ぜひご活用ください(http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/rss_guidance.pdf)。

